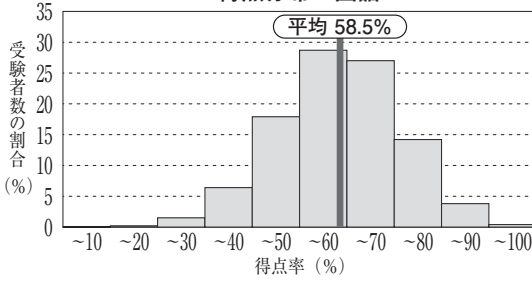


この秋、計画的に勉強を進め、国語の得点力を上げていこう！

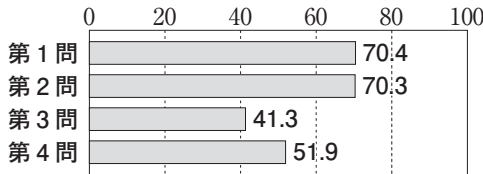
I. 全体講評

「第三回8月センター試験本番レベル模試」の成績はどうだったであろうか。この夏の勉強の成果として、よい結果を得ることが出来たであろうか。全体の平均点は一一・六・九点（二〇〇点満点）と、前回の6月の「全国统一高校生テスト」から一〇点あまり得点を伸ばしているの、きつ

得点分布 国語



大問別得点率 (%)



と、この夏、頑張った諸君が多かったのである。今回結果を出せた諸君は、自分が志望する大学の過去問演習まで勉強を進めるなどし、残念ながら結果が出せなかった諸君は、ここからどうやって合格点を出していくか、勉強のスケジュールを決めるなど、それぞれ計画を立てて着実に勉強を進めていくようにしよう。

現代文については、評論も小説も得点率が七割を超えていた。成績を伸ばすのに時間のかかる現代文でこの夏、結果がでた人が多かったのはとてもよかった。ここからは、センターおよび自分が受験をする可能性がある大学の過去問演習を日々の勉強に組みこもう。日々の演習量は少なくとも構わない。問題を毎日解くようにすることが読解力を高めるのに有効である。

古典については、古文・漢文とも前回より上昇していたのは良かった。特に漢文は得点率が五割を超えてきたのは重要知識事項を身につけた人も増えてきたことであろう。漢文は覚えるべきことを覚えれば一気に点数が伸びる。また、重要漢字・句法が覚えられていない人は（現代文読解とは違って）短期集中で一気に覚えてしまおう。それが出来てこそ、問題演習も効果的に行えるようになる。

古文については、得点率は上がったとはいえ、

まだまだ成績を伸ばす必要がある人が多いようだ。漢文と比べると、読解のために、覚えておくべき文法や単語などの知識も多く確かに大変だが、英語などとは比べものにならないくらい圧倒的に少ない。センターで必ず必要になる諸君、二次・私大の試験でも必要になる諸君は腹をくくって、知識事項は9月中、なるべく早いうちに集中的に覚えてしまおう。あとは過去問演習の中で、繰り返し知識事項を確認し、読解力・解答力を磨いていこう。

II 大問別分析

第1問 (評論)

難解な文章での高い正答率は実力向上の証だが、選択肢を慎重に検討する力を身につけよう！

夏を迎え、本番モードに突入したせいかわかり難解な文章だったが、前回を超えて七割台の平均得点率で、センター試験突破を目指すうえで十分な実力がついてきたようだ。

今回、新テストの傾向を加味し、図表の読み取りを含んだ対話形式の設問(問4)を用意したが、特に苦手意識もなく、高い正答率であった。まぎらわしいものを含んだ問1の漢字問題は好

調。一方、正答率が五割を割っている設問は問5だけであった。この調子をキープしたい。

問1の漢字問題の(ウ)は、「異議を唱える」だが、意義、異義、威儀と同音異義語は多いが、正答率は六七・五%だった。(オ)「周縁」は文章の読解をしっかりとしていないと、思い浮かばない。正答率は六〇・五%で漢字問題中、最も低かった。

問2の正答率は七七・〇%、3行選択肢の問3は七八・四%、対話の空欄を埋める語句を求める問4は八二・七%と、よくできていた。

問5の正答率は、四一・五%と低調だった。最も多い誤答は選択肢①だが、「すべての文化から等距離にあるような拠点」にまどわされ、直前の「多様な文化の格差を判断する」とこととの矛盾に気づかなかつたようだ。センター試験らしい難問である。選択肢を慎重に検討してもらいたい。

問6では、(i)・(ii)ともに正答率が六〇%台で、設問は比較的平易だったことから考えれば、標準的な成績である。文章表現の細部への注意も必要になる(i)では④が、文章全体の構成に関する(ii)では①の誤答も見られた。部分に注目する鋭い視点と全体を把握する大局的な視点の両者を兼ね備えることが課題となる。今後、多くの多様な文章を読んで鍛えていってほしい。

第2問 (小説)

長い選択肢は部分にわけて、文章との対応を丁寧に確認しよう！

今回の平均得点率は七〇・三%と、前回よりさらによい結果となった。夏の成果が出たようだ。

問1の語句の意味を問う問題は、(イ)「醉狂」が二八・一%で正答率が低かった。(ア)と(ウ)も四〇%台で語句問題で苦戦している。語句問題は「辞書的意味」と「文脈」の二つの視点を持つ。問題作成者は「辞書的意味からは外れるが文脈には適合しそうな選択肢(＝誤答)」を作る。「文脈だけ」見て選ぶことのないよう注意してほしい。

問2～問4は、いずれも正答率が八〇%を超えており、良くできていた。傍線部の心情把握もさほど困らなかつたようである。

問5の正答率は五五・八%で、問2～問4に比べるとかなり低い水準であった。選択肢が三行あり、説明している範囲も広いので難しかったのかもしれないが、選択肢を細かく分けて文章との対応を考えていけば、決して難しい問題ではない。前の3問が易しかったことを考えると、問5の出来不出来が他の受験生との差に直結するということである。選択肢が長い場合、選択肢自体を熟読する意識を強く持つてほしい。

問6の正答率はいずれも七割台であった。誤答選択肢(＝文章の表現として適切な選択肢)は、筆者の巧みな表現技術を説明しており、小説読解の視点を与えてくれるので、正答を選べた人も今一度誤答選択肢を読み直してほしい。

第3問 (古文)

人物の居場所と言動を整理しよう！

今回の全体の得点率は四一・三%で、前回より伸びはしたが、読解問題だけでなく、得点源として語釈や文法問題も正答率四～五割にとどま

り、苦戦したようだ。

問1の語釈問題は、どれも四割程度の正答率であった。(ア)は重要語「ひが事」であるが、「不吉なこと」とした②への誤答が三割を超えた。(イ)は「なん」の識別であったが、文脈から選択肢②・④・⑤を選んでいい。文法も吟味のポイントにしたい。(ウ)も同様に「そらね」は正しいが、係り結びの省略によって推量か隠れていることに気付かなかつた誤答①が二割を超えた。

問2は品詞分解した傍線部の文法事項について不適当なものを選ぶ、最新タイプの問題であった。正答は尊敬の補助動詞の数が異なるもので、五割の正答率であった。誤答が多かつたのは断定の助動詞の連用形「に」の選択肢で、「あり」を伴う典型的な形なので解説を読んで復習しよう。

問3は、傍線部の心情説明である。これは三割程度の正答率にとどまった。侍の武装について仕方ないと考えている③への誤答が四割を超え、正答率を越えてしまった。「もてなし」に触れている選択肢であることが重要である。

問4は、敬語の有無と人物の居場所から、夫が父に、筆者との同居をすすめていることを読み取る問題で、正答率は二割と低迷した。夫と父に敬語が用いられているのはわかっていても、「かの宿」にいる父に使いが出されていることがわからず、父自身が筆者に同居を勧めているとした①への誤答が四割近く、正答率を越えてしまった。

問5は、歌にこめられた夫への心情を読み取る問題で、六割近い正答率であった。月を夫に見立てて不安を詠んでいるが、引き留めようとしたと

する③への誤答がやや多かった。本文に書かれていない内容を含む、言い過ぎた選択肢は×である。

問6は内容合致問題で、三割程度の正答率であった。誤答③は、逃れていく車に武士が乗れとすすめたのではなく、自分たちで乗った点で誤答なのだが、二割を超えて多かった。車については途中で分乗するなど、混乱した状況を描写しているもので、丁寧な本文比較が必要である。

第4問 (漢文)

筆者の主張とその理由、時系列の変化を丁寧に読み取ろう!

今回の全体の得点率は五一・九%と五割を超え、前回よりも健闘した。

問1は多義語「為」の本文での意味を熟語で答える問題で、送り仮名もヒントである。「修習」の意の①「をさむル」、「判定」の意味の②「なす」は、八割・九割の正答率を得られていたが、「作成」の意の③「つくル」は正答率二割を切り、誤答も分散した。目的語が「詩賦を」であるので、作る意だと読み取らなければならない。

問2は語彙を問う問題で、(1)「墨守」は一人の先生の説に頑なに従うことで、良い意味ではない点に注意する。五割の正答率であった。(2)は重要語「所以」で、これは七割の正答率が得られた。

問3は、自説を述べさせる前に注疏や諸説の暗記を問うのはなぜかという理由説明の問題で、四割の正答率であった。傍線部から離れた本文後半に、諸説の暗記を怠ると空疎な学説に陥るとある

ことから判断する。誤答でやや多かったのは、自説が独創的であるか判断するとしたもので、良さそうにみえるが、本文にはそのような記述はない。

問4は、反語の句法に注意しながら内容説明をする問題である。「賤しむ所」が「明経」であること、それが暗記科目であり、その科目を復活させることに対して否定的に言う人の意見を反語を用いて立てている。六割近い正答率であった。

問5は、返り点と書き下し文の組み合わせの問題で、本文に傍線部と対になる部分があるのでそこに注目する。「士を得るに足る」と読む点、「也」が断定「なり」である点に注意すると、解答は①・③に絞られるが、誤答の②は、文のつながりが不適當で選べない。

問6は、本文の趣旨に関する問題で、正答率は四割ほどであった。暗記科目回避をやめ、元どおりに戻すことで空疎で軽薄な学説を持たないようにするというものである。誤答で多かった②は、王安石批判に終わってしまっており、科擧のあり方を問う問題の解答としてふさわしくないが、二割を超える受験者が選択した。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆国語は、センターレベルを固めることが、二次・私大対策に直結する!

今回、ある程度結果が出た諸君は、「センターレベルを完成させる」ことを意識してほしい。国立二次試験や私大で国語が必要な場合、そもそも二次・私大対策に取りかかりたいところだが、

「センターレベルが仕上がった」という手応えが感じられないまま二次・私大対策に突入しても、思うような成果は出ない。センターレベルをきっちり固めることが、国語では他教科以上に二次・私大対策に直結する。センターレベルを固めた上で二次・私大の過去問研究を進めよう。そして、一〇月二八日に実施される全国統一高校生テストで一〇〇%満足できる得点が得られるよう、勉強を進めてほしい。

一方、この夏国語の勉強が十分ではなかった諸君は、この2か月がラストチャンスである。現代文・古典ともに、読解のための重要知識、読解方法をなるべく早く叩き込み、次回の全国統一高校生テストで結果を出せるよう頑張ろう!

◆センター試験の制限時間を意識した実践的な戦略を立てよう!

これからの時期、センター試験の国語でポイントとなることに「時間配分」と「漢文」がある。自分なりに時間配分や解く順番を考えて解いているだろうか。八〇分という制約の中で効率よく問題を解いていくところにセンター試験の国語の難しさがある。過去問演習の際に、最も意識してほしいポイントである。

また、漢文は句法などの暗記項目を習得すれば必ず得点に結びつく。短時間で大きな成果を上げることが出来る。漢文にまだ苦手意識がある諸君は、漢文を効率よく解き、評論・小説にいかん時間回せるかに意識を向けてほしい。それがセンター国語の得点を最大化することにつながる。